様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月　 ７ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2019
課題番号：１９Ｋ２３００８

研究課題名（和文）コンラート・ツェルティス『愛の四書』挿絵におけるゲルマニア概念と風景観の成立

研究課題名（英文）The Illustrations of "Conrad Celtis Quattuor libri amorum(Amores)": The Concept of "Germania" and the Origin of Landscape

研究代表者
藪田　淳子（Yabuta, Junko）

神戸大学・人文学研究科・人文学研究科研究員

研究者番号：６０８４４９９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,100,000円

研究成果の概要（和文）：　『愛の四書』はドイツ各地に所蔵されており、挿絵ではドイツ独自の寓意的な表現がみられることから、現地において次のような調査をした。まずドイツで『愛の四書』の各版を実見して、挿絵や刷りの状態の異同を確認した。その結果、各版の書き込みや刷りの状態、彩色の有無、含まれる挿絵の相違が明らかになった。
　次にミュンヘンの中央美術史研究所で、16世紀ドイツの風景表現並びに寓意表現や神話図像に関する資料を渉猟した。『愛の四書』挿絵にはドイツの風景を表したものと、詩文に関連した神話図像があるが、ツェルティスが参考にしたと思われるイタリアの作例と比較しながら、ドイツ独自の神話図像・風景表現としての意味を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究では、ドイツ人文主義の第一人者、コンラート・ツェルティスの『愛の四書』（1502年）挿絵のカタログ化を目指し、その意味内容を分析した。『愛の四書』とは、1500年頃のドイツにおける郷土意識の高まりを反映して、ドイツの風景をはじめて包括的に、詩文と挿絵で賛美した書である。
　今回の調査によって、『愛の四書』と「ドイツ的な」風景に対する意識との関わりについて検討し、これまで手薄であった16世紀ドイツの風景画研究に貢献することができた。

研究成果の概要（英文）：First, I visited libraries in Germany to do research on several editions of Celtis’ "Amores”. I was able to recognize the marginal notes, coloration, and differences between the illustrations.
After that, I referred to documents on the landscape, allegory, and the mythological 16th century German iconography at the Zentralinstitut fuer Kunstgeschichte Muenchen. I also analyzed the topographical and mythological illustrations of “Amores” with comparison to contemporaneous Italian examples.

研究分野：ドイツ美術

キーワード：コンラート・ツェルティス　ドイツ人文主義　風景画　ドナウ派

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまで報告者は、16 世紀ドイツの風景画について研究してきた。西洋で最初に純粋な風景画が描かれたのは1520年頃のドイツだと考えられているが、その制作背景には不明な点が多い。当時の風景画は、17 世紀オランダの風景画のように、市民に受容されジャンルとして確立していたわけではなく、一部の教養層にのみ受容されていた。また風景表現を発展させたドイツの「ドナウ派」と呼ばれる画家たちは、特定の集団に属さず、風景画の公的な注文記録も残っていない。

16 世紀ドイツの風景画は、古来そうであったように、私的に風景を眺める楽しみからはじまったと考えられる。その一方で、イタリアやネーデルラントの理想化された風景とは異なる、独自の表現が試みられている。筆者は、そのような風景表現の発展を促したのは、郷土意識（愛国主義）の高まりであったと考えた。この点を明らかにするために、ドイツ人文主義の第一人者、コンラート・ツェルティスが上梓した『愛の四書』の挿絵に注目した。

ツェルティスの『愛の四書』は、ドイツの風景を詩と挿絵で詠った書で、神聖ローマ帝国マクシミリアン一世に献呈され、ドイツ各地の人文主義者たちにも読まれた。同書挿絵はドイツの地勢図と神話図像からなり、ツェルティスの助言を受けたアルブレヒト・デューラーらドイツの画家たちの原画にもとづいて版刻された。

報告者は、制作意図が把握しづらい風景画を研究するためには、ドイツの自然が詩と挿絵ではじめて詠われた『愛の四書』から、ドイツ人文主義者らが共有していた風景観について考察する必要があると考えた。そのために同書の地勢図と神話図の意味を分析し、ドイツにおける郷土意識の高まりと風景画発展との関連を明らかにすることを試みた。

２．研究の目的

『愛の四書』挿絵を分析することで、風景画成立の要因と考えられる、ドイツ人文主義者が共有していた風景観を明らかにすることを目指した。同書挿絵のうち、地勢図では、月暦画や星辰図の図像が組み合わされ、ドイツの土地が表されている。この地勢図の分析によって、従来の伝統的な図像を取り入れた、ドイツの自然の称揚の実態が明らかになると考えた。

また挿絵のうち神話図では、アポロやディアナ、バッカスといった神話の神々とともに自然に関する寓意が表されている。この神話図はイタリアの神話図像を借用しながら、ドイツにおける「ゲルマニア図像」として構想された。「ゲルマニア図像」解読によって、ドイツで独自の神話図像が打ち出され、そこに自然観も表されていると推測した。

このように『愛の四書』の地勢図と神話図の意味を解明することで、郷土意識の高まりと風景画発展との関連を探ることを試みた。

３．研究の方法

2020 年 2 月に、ドイツで『愛の四書』挿絵に関する研究を行い、同書挿絵の意味を解明することによって、風景画成立の背景を考察した。まずドイツに所蔵されている『愛の四書』の各版を実見し、挿絵や刷りの異同を確認し、『愛の四書』の受容者や、各挿絵の制作意図を明確にすることを試みた。各版を閲覧するために訪問したのは、ミュンヘン州立図書館、ルードヴィヒ＝マクシミリアン大学図書館（ミュンヘン）、ゲルマン国立博物館（ニュルンベルク）、アウクスト侯爵図書館（ヴォルフェンビュッテル）である。

次にミュンヘンの中央美術史研究所で、16 世紀ドイツの風景表現並びに寓意画や神話図像に関する資料を渉猟した。挿絵を図像学的に分析し、イタリアの作例と比較しながら、ドイツ独自の神話図像・地勢図としての意味を分析した。また同研究所で、イタリアのヴェネツィア派、ネーデルラント、ドイツのドナウ派の風景画についての研究書を閲覧し、ドイツと隣国の風景画の表現内容と受容者の相違点について論じた。

『愛の四書』挿絵の意味を検討することによって、ドイツの郷土意識の高まりと風景画成立との関係について考察し、その内容を現在論文にまとめている。

４．研究成果

本研究では、『愛の四書』挿絵を分析することで、ドイツで風景画成立を醸成した一要因について考察した。

『愛の四書』挿絵については 2001 年にペーター・ルーが、同書テキストについては 2003 年にイェルク・ロベルトがすでに研究を行っていたが、挿絵の図像学的分析は不十分であった。

またドイツの風景画研究において、ドナウ派の個別の画家についての論考はあったが、ほとんどの場合注文主が不明であるため、風景画と受容者の関係に言及されることはほとんどなかった。

そこで『愛の四書』挿絵を分析し、そこに表された「ドイツ的な風景（自然）」のイメージについて考察した。ミュンヘン州立図書館、ルードヴィヒ＝マクシミリアン大学図書館（ミュンヘン）、ゲルマン国立博物館（ニュルンベルク）、アウクスト侯爵図書館（ヴォルフェンビュッテル）、オーストリア国立図書館で『愛の四書』挿絵を実見し、各版の書き込みや刷りの状態、彩色の有無、含まれる挿絵の相違が明らかになった。

次に『愛の四書』挿絵の地勢図を、同時代のイタリアの星辰図や月暦画と比較して、その意味を検討し、ドイツの風景称揚の実態について考察した。

今後、『愛の四書』の地勢図や神話図の分析をもとに、同書と「ドイツ的な」風景に対する意識との関わりを検討したい。さらにドイツの郷土意識の高まりと風景画成立の関係について、研究を続けるつもりである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 藪田淳子	４．巻 —
２．論文標題 コンラート・ツェルティス『愛の四書』各版と挿絵について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『美術史論集』神戸大学美術史研究会	６．最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

—

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考